

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	観光名所（従業員）	来客数の動き	・これほど天候に恵まれた2月は珍しい。また、冬の一大イベントと春節の期間が重ならなかったことで、インバウンドの入込が例年より長期にわたっていることもプラスとなっている。2月の来客数は、当初の想定を約40%上回り、過去最高の来客数となる見込みであり、非常に景気の良い状態にある。
	○	一般小売店（経営者）	来客数の動き	・2月の月初めは、大雪の影響で客足が鈍っていたものの、天候が改善するにつれ、客の動きが良くなってきた。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・衣料関連や住宅余暇関連などの部門で、不要不急の商品の動きが良く、食料品以外で客の消費意欲が上向いている様子がうかがえる。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・インバウンドの増加もあって、来客数が増加傾向にある。客単価も上昇していることから、売上が前年よりも伸びている。
	○	衣料品専門店（エリア担当）	お客様の様子	・徐々に気温が上昇していることから、新生活関連商材や春物商材を買うことを目的に来店する客が増えている。話題性のある商品を目的に来店する客も増えている。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・車両販売については、新車も中古車も前年比で3割ほど増加している。一方、サービス部門の収益は前年並みで推移している。ただし、まだ景気が良いといえる水準までは回復していない。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・インバウンド需要が増えたことから、景気はやや良くなっている。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ミラノ・コルティナオリンピックによる特需があり、応援団の渡航や観戦ツアーなどの利用で販売量が伸びた1か月であった。
	○	タクシー運転手	販売量の動き	・冬季に入り、需要が増えたことで、一時的に売上が増えている。ただし、中国における日本への渡航自粛呼び掛けの影響もあって、観光客の需要は減少している。
	○	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・年末商戦以降、3G通信サービスの終了に伴う、機種変更への対応に向けて、店舗では高い目標に向けて奮闘している。新料金プランの導入やイベント強化などの販売促進策が充実していることもあって、他社からの乗換えや店舗外での販売イベントは好調に推移している。ただし、人材不足や一部商品の在庫不足が課題となっているほか、目標達成へのプレッシャーが現場の負担増につながっている。
	□	商店街（代表者）	単価の動き	・高額商品はますます売れるものの、中間価格帯の商品の動きが厳しくなっている。全体的に、買上単価の2極化が進んでおり、それに伴って客単価が低下している状況にある。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・2月は、数回にわたって大雪があり、そのたびに交通機関が麻痺するなどの大きな影響が生じた。そのため、中心部の商業は壊滅的な販売不振に見舞われた。また、衆議院選挙の影響で、有権者が地元から離れることができなくなったことで、当地の冬の一大イベントにおいて、国内観光客が大幅に減少したこともマイナスであった。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・昼間の来客数は相変わらず少なく、管外から訪れる客も少なかった。夜間は、宴会などである程度の来客数がみられた。
	□	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・2月は大きなイベントが開催されたものの、来道客数が横ばいでの推移となったことから、当店の販売実績も横ばいであった。
□	スーパー（店長）	お客様の様子	・物価高が続いていることから、景気は変わらない。	
□	スーパー（店長）	販売量の動き	・消費税の今後の動向が気掛かりである。	

□	スーパー（役員）	お客様の様子	・節分の恵方巻きがよく売れた。イベントなどには金を使うものの、それ以外のときは節約するメリハリのある消費行動が、客の間で強まっていることがうかがえる。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・地方自治体において、生活支援を目的に商品券を配布したり、現金を給付するケースがみられる。これらの自治体の店舗では、一時的に消費が増えているものの、こうした動きは一過性のものであり、景気は大きくは変わっていない。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が減少していることから、客の消費意欲が落ち込んでいることがうかがえる。また、観光地では、中国系のインバウンドの姿をほとんど見掛けないこともあって、インバウンドの減少が目立っており、影響が大きくなっている。
□	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・町や村などの地方自治体において、物価対策として商品券を配布する動きがみられる。それに伴って、店舗の販売量も増加しているものの、商品券による上乗せ分を除くと、販売量はほとんど伸びていないことから、景気は変わっていない。
□	コンビニ（店長）	お客様の様子	・値引きした商品やセール品などを買う客が増えている一方で、通常価格の新商品に対する客の反応が悪くなっている。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・2月の販売量は、タイヤ交換の繁忙期であった3か月前と比べて伸びている。3月の決算期を前に、販売に注力できたことが要因として大きく、景気はそれほど変わっていない。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・自動車を長期保有する客が増えており、受注が低迷している。一方、サービス部門は目標を達成できている。これらのことから、収益は前年並みで推移している。
□	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・来客数は3か月前との比較で95%であった。同様に、売上は100%となっており、いずれも大きな変化がみられない状況にある。今後、夏タイヤの交換時期になると、来客数及び売上は増加すると見込まれるものの、これは季節要因であるため、必ずしも景気が良くなるわけではない。
□	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・大雪の影響により、除雪関連商品の販売量が増加した一方で、その他の商品については大きな増減がみられなかった。大雪という特殊要因を除くと、景気は良くも悪くもなっていない。
□	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	単価の動き	・3か月前と比べて、特に変化はみられない。
□	高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・前年と比較すると、売上は減っているものの、景気は余り変わっていない。地元客の外食控えが進んでいる一方で、定期的に来店する社員もみられる。また、インバウンドが堅調に推移していることで、インバウンドをターゲットにしている飲食店は繁盛している。ただし、当店のような高級店ではそれほど影響がみられない。
□	観光型ホテル（経営者）	単価の動き	・食料品やエネルギーを中心とする物価高の影響により、個人客の予約が伸び悩んでいる。そのため、今年の冬は、これまでのシーズンとは異なり、宿泊単価を上げにくくなっている。
□	観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・インバウンド需要は、引き続き好調に推移しているものの、国内旅行者の需要が伸び悩んでいる。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・前年12月17日に、運賃引上げと冬季割増運賃の適用が始まったことで、タクシー1台当たりの売上が大幅に増えることを期待していたものの、2月のタクシーの売上は、前年並みであった。ただし、当社では、乗務員の採用に注力した効果で、タクシーの稼働台数が約15%増加していることから、売上は約15%の増加となった。

□	タクシー運転手	販売量の動き	・タクシー運賃の改定により、運送収入が増加した。懸念していた乗り控えの影響が想定よりも少なかったことから、景気の底堅さがうかがえる。
□	美容室（経営者）	お客様の様子	・2月は、過去にないほど天候が悪かったにもかかわらず、売上が落ち込むこともなかった。前年からみられていた雰囲気悪さが少しずつ薄れている状況にある。
□	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・冬季ということもあって、輸送量は前月並みとなっている。生活物資などの輸送量も横ばいで推移している。
□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・マンションも戸建て住宅も建築単価の高止まりが続いていることに加え、住宅ローン金利が上昇基調にあることから、客が購入の様子見する傾向がみられる。
▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・今年に入ってから、売上に勢いがみられなくなっている。物価が高騰していることで、酒類の販売に影響が生じているとみられる。
▲	百貨店（売場主任）	それ以外	・取引先である中小企業の撤退や倒産などにより、商品展開に影響が出ている。それに伴って売上も減少傾向にある。
▲	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数が減っている。観光地に立地している店舗では、中国における日本への渡航自粛呼び掛けの影響などはみられないことから、地元の消費者の来店が減少していることがうかがえる。春の生活イベントに向けて、客が支出を控えていることが要因として考えられる。
▲	スーパー（従業員）	単価の動き	・商品の値上げが進んでいることから、景気はやや悪くなっている。
▲	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・客の購入量が減少している。
▲	乗用車販売店（経営者）	競争相手の様子	・例年と比較して、新車受注の動きが鈍い。他社分を含めた受注量は、前年比88%と厳しい状況となっている。また、中古車販売やサービス部門の売上も鈍化傾向にある。
▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・販売量の低迷が続いている。物価上昇や公共料金引き上げの影響もあるものの、人口減少や高齢化の進展に伴って、耐久消費財を購入しない又は更新しない世帯が増加しているとみられる。
▲	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・2月は、週末に大雪が降ることが多かったため、来客数に加え、配達注文も減少し、厳しい状況となった。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・この時期は観光の閑散期であり、観光客に支えられているという地域性もあって、3か月前との比較では来客数の落ち込みが顕著に表れている。
▲	スナック（経営者）	来客数の動き	・衆議院選挙の影響もあって、来客数がやや少なくなっている。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・2月は冬季観光の繁忙期であるため、当地への直行便や大都市圏経由の乗継便を利用したインバウンドが増加している。また、冬型のイベントが各地で開催されたことで、国内客の観光需要も旺盛であった。ただし、大雪の影響で、航空機の欠航や地上交通機関の運休などが相次いだことから、旅行を取りやめた客が例年よりもかなり多かったとみられる。そのため、全体としての景気はやや悪くなっている。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来客数の減少が続いている。特に宿泊先のみを手配する客が顕著に減少しており、Web予約に移行していることがうかがえる。ただし、旅行単価の上昇もあって、取扱額は僅かな減少にとどまっている。
▲	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・3か月前と比較すると、問合せ件数も来客数も減少している。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・雪解けが進むにつれて、タクシーの乗客数が減少している。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・客のほとんどが物価高の話をすることから、景気はやや悪くなっている。

	▲	住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・一般住宅について、着工件数の少ない状況が続いている。特に木造の一般住宅が厳しい状況にある。非住宅については、多少動きがみられる。
	▲	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを訪れる客の予算が、以前よりも厳しくなっている。同じ部屋タイプであれば、階数が少し下のより価格の安い部屋を検討することが増えている。
	×	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・一段と物価高が進んでいることで、衣服に対する客の節約志向が強まっている。特におしゃれな服は、節約の対象となりやすいため、景気は厳しい状況にある。
	×	衣料品専門店 (店長)	販売量の動き	・例年であれば、新年度に向けてスーツの需要が高まってくる時期であるものの、今年は見下で訪れる客が多く、購入につながらないケースが増えている。関連アイテムの購入も本当に必要な物だけにとどまっており、家計の厳しさがうかがえる。
	×	その他専門店 [造花] (店長)	お客様の様子	・例年2月は閑散期であるものの、今年は特に天候が悪かったことから、落ち込みが大きかった。
企業 動向 関連	◎	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・2月の販売量は前年比プラス31%であったが、3か月前の11月の販売量は前年比マイナス3%だったことから、景気はやや良くなっている。
(北海道)	○	建設業 (役員)	受注量や販売量の動き	・年度末を控え、受注工事の多くが完工を迎えている。通期で天候の大きな影響を受けず、工期短縮が進んだことに加え、設計変更に伴う追加工事の増加もあり、完工高、利益共に年度計画を大幅に上回ることが確定した。
	○	広告代理店 (従業員)	受注量や販売量の動き	・3月までの売上について、予算を達成できる見込みとなっている。
	○	その他サービス業 [建設機械リース] (営業担当)	取引先の様子	・労働力不足、資材価格の高騰などの懸念事項はあるものの、高水準の建設投資が今後も継続することが見込まれる。スーパーゼネコンを中心に、各社の業績は好調に推移している。
	□	農林水産業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・度重なる不作の影響で、りんごの店頭価格が高騰しており、販売量が伸び悩んでいる。輸出も伸び悩んでいる。
	□	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・受注量は、例年の2月と変わらない状況にある。
	□	金属製品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・住宅の新築着工棟数の減少傾向に歯止めがかからない。
	□	建設業 (経営者)	取引先の様子	・次年度に向けての見積依頼が始まっているものの、春先から着工できる案件がやや少ない状況にある。
	□	建設業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・目標を達成しているという点では、景気は上向きといえるものの、作業人員の不足により、案件に対応できないという状況もみられる。そのため、全体的には景気は変わらない状況にある。
	□	コピーサービス業 (従業員)	受注価格や販売価格の動き	・ICT分野において、価格高騰が進んでいる。また、報道などでセキュリティ面の問題を取り扱われる機会が増えていることで、経営者の意識が高まっている状況にある。
	□	その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量の動き	・新規案件の効果もあって、受注金額が見込みよりも上振れしている。ただし、ベース商品の販売量は15%ほど減少している。
	▲	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・中国からのインバウンドの減少に伴って、売上が減少している状況は変わらない。インバウンドが減り始めた11月と比較すると、やや悪くなっている状況にある。
	▲	輸送業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・倉庫保管は、バターや粉乳などの乳製品が好調であり、在庫量が高水準で推移している。一方、国内トレーラー輸送は、農産物関連が相変わらず不調である。また、紙パルプの減産により、輸送用の台車の回転率が低下していることで、回送費用がかさみ、収益を圧迫している。今後しばらくは同様の状況が続くとみられる。

	▲	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・2月は、大雪や荒天の影響により、物流が滞ることが多かったことから、景気はやや悪くなっている。3月以降、追加供給の物流が生じることを期待している。
	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・中小企業において、人員確保が難しいとしつつも、省力化投資を進めるとい声は少ない。物価高、人件費増加により、利益確保に苦慮している企業が多いことがうかがえる。
	▲	司法書士	取引先の様子	・冬季は、不動産取引が減少する傾向があるものの、今年は例年よりも減少幅が大きくなっている。また、円安が続いていることで、資材などの輸入価格が上昇しており、新築やリフォームの受注環境に大きな影響が生じている。
	▲	司法書士	受注量や販売量の動き	・相続案件は安定的に依頼があるものの、企業からの不動産取引の依頼がやや減少した。
	▲	その他サービス業 [ソフトウェア開発]（経営者）	受注量や販売量の動き	・新年度のIT設備投資が絞られている状況にある。原材料価格高騰に伴い利益が縮小していることが影響しているとみられる。
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
雇用 関連 (北海道)	○	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人数は、引き続き増加傾向で推移している。一方、求職者の登録件数は、3か月前と比べて20%増加している。これは、新しい年を迎え、転職活動を再開した求職者が増えたためとみられる。企業との面接件数は、3か月前と比べて10%ほど増えており、企業の採用意欲は変わっていないことがうかがえる。ただし、採用基準については、以前よりもハードルが上がっており、簡単には内定を出さない状況となっている。求人職種としては、営業と管理系がほぼ半々となっている。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・業種を問わず大きな変化はみられない。ただし、例年であれば、年間を通して求人数が増えてくる時期であるものの、今のところ、例年のような勢いはみられない状況にある。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人広告掲載申込件数の微減傾向が、長期間にわたって続いている。一方、新規採用が難航している企業が多く、こうした企業では新卒採用を諦め、中途採用へ切り替える動きがみられている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における1月の有効求人倍率は0.77倍であり、前年を0.07ポイント下回り、6か月連続で前年を下回った。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・人手不足や原材料価格高騰の状況が変わらないことから、利益確保に苦心している企業が多くみられる。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数が前月から減少しているものの、景気の良しあしを判断しづらい状況にある。ただし、宿泊サービス業の求人数が増加傾向にあることから、観光業では、冬季を迎えて業績が好転しつつあることがうかがえる。中国からのインバウンドは減っているものの、その他の国からのインバウンドが好調なことから、それが宿泊サービス業の求人数の増加につながったとみられる。
	□	学校 [大学]（就職担当）	求人数の動き	・求人数は、前年と比べて減少しているものの、景気に変化はみられない。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・求人数は、旅客運送や医療・介護業界の求人数がやや増えているものの、全体では引き続き減少傾向にある。人材が必要な企業は多いものの、採用に至らないケースが多いことから、コストが掛からない採用手法を選択する企業や採用を手控える企業が増えていることがうかがえる。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年10月からの4か月で、新規求人数が前年比マイナス10%台の大幅な減少となった月が3回を占めている。求人数の落ち込みの大きい状況が継続していることから、景気はやや悪くなっている。
	×	—	—	—